

令和3年度施設関係者評価

令和4年3月31日

報告者氏名 菊地 弘子

評価者氏名 百戸 澄江



全体評価

子どもたち一人ひとりに寄り添った教育・保育している姿勢がみられます。コロナ禍において、職員の皆様に対策や工夫をして、行事や行ない保護者支援にも取り組み、保護者も見える子育て支援の場、園の基盤と感じました。今後も子どもたちの安全と健康かの成長を願うべく努力をお願いします

個別評価

評価項目	実施状況	評価	
教育課程指導	全体計画の立案、実践	4月計画作成、随時評価、3月評価反省及び改善事項の洗い出し	4.5
	年齢別指導計画	年案、月案、週案作成	4.5
	保育の記録	日々の保育記録（日誌） 保育ドキュメントの作成	5
保健管理	学校保健計画	看護師を中心に4月計画作成、随時評価、3月評価反省及び改善事項の洗い出し	4.5
安全管理	学校安全計画	幹部職員を中心に4月計画作成、随時評価、3月評価反省及び改善事項の洗い出し	4.5
特別支援教育	発達支援	感染症のため、心理士による指導助言実施できず	4
組織運営	園務分掌	職位・分掌に基づき遂行	4.5
	職員会議	リモート会議月2回（全職員）	5
	運営会議	対面で月1回（副主幹以上）	4.5
	給食会議	書面で意見交換	4
研修	園内研修	免許更新講習該当者オンラインで実施 園内研修：公開保育（動画公開）	4.5
	外部研修	オンラインで実施	4.5
教育目標	「根気強く取り組む子・思いやりがある子・挨拶ができる子」	保育活動の中で具現化	5
情報提供	お知らせ	園だより・一斉メールの活用	5
	保育内容	ホームページに掲載（ブログ・ツイッター他）	5
保護者との連携	行事への招待、保育の公開	運動会参観（3歳以上）、発表会動画（2歳以上）、保育参観（0、1才）、保育ドキュメント掲示	5
地域住民との連携	行事への招待	なし	5
子育て支援	子育て支援室	予約による受け入れ	4.5
預かり保育		1号認定児に対する 午後の預かりを実施	5
教育環境整備	教育環境整備	主幹保育教諭、用務員を中心に整備	4.5
食育	食育活動	調理担当を中心に食育計画作成、クッキング活動 野菜、コメ栽培	5
養護	健康支援	午睡チェック 0才 5分毎 1才 10分毎	5
苦情解決		掲示あり 記録簿あり	4

保護者代表評価者氏名 大原早苗 塚田知保

令和3年度 施設関係者評価

目的：保育者の自己評価、園の自己評価をもとに、現状に対する共通理解を図り
管理面、運営面等の改善協力を促進する。

1. 保育者の自己評価（2010年度より実施）

「平成30年度施行幼保連携型認定こども園新教育・保育要領」に基づく
自己チェックリスト100」（保育総合研究会監修）

○実施方法：年2回（8月・1月）実施 項目ごとに4段階評価

8月は前期の振り返りを行い、達成度や課題の確認を行った。

1月は年間を通した振り返りを行い、クラス運営、園全体、次年度への課題を
明らかにした。

○集計方法：「十分している」および「している」の数値を集計

<自己評価集計結果>

①保育関係15（園長・支援担当含む） 100項目

I 園の基本姿勢について 96.5% （前年98.7%）

II 教育保育要領理解と実践

総則 78.8% （前年74.5%）

内容・配慮事項 77.9% （前年74.2%）

健康安全 78.7% （前年80.5%）

子育ての支援 70.5% （前年60.0%）

III 独自の取り組み 70.6% （前年76.7%）

②給食関係4 150項目 食育54.1%・食事の提供81.1%・衛生管理94.6%

③看護・支援3 100項目のうちの該当部分のみ

<考察>

集計結果から、認定こども園としての姿勢については 共通理解ができてきていると感じる。

保育の理解と実践は全体的に微増傾向である。項目で見ると、疾病対策は特に意識的に取り組んだが、到達点が見えないことでまだ不足しているのかもしれないと不安感がみえる。一方、小学校との接続や諸機関との連携、地域の子育て支援に対し感染防止のため交流の機会が少なかったことはあるものの、HPやオンラインでの交流が生まれたことに手ごたえを感じているので、今後もより活発な活動が期待できる。

給食関係では、年長とのクッキングなど新しい取り組みが目立ち、実践面での評価は数字以上に高く感じる。

クラス運営に関しては、すべてのクラスで年齢なりの課題に沿い、子供たちとかかわりを深めることができた。一方で行事が少ないことで成長を讃えてもらう機会は減ったのが残念と述べている。今後は、行事の在り方についての検討が重要だと感じている。

2. 園の自己評価

①保健衛生

コロナウイルス感染症の終息が見えないまま、終わる一年となった。9月、3月と園内での発症があり、休園、クラス閉鎖を余儀なくされてしまい、心苦しく思う。

リーバーの導入による体調管理も軌道に乗り、換気や手洗い指導、マスク着用に気を配りってきた。活動中の子供に対する保育者の細かい健康観察と看護師によるいち早い隔離を今後も続けていく。37.5度という基準値は厳しいものの今後も保護者の方々のご協力をいただきつつ、エッセンシャルワーカーとして社会的要請にこたえる運営を続けていきたい。

②保護者とのコミュニケーション

- ・前年度の保護者アンケートに基づき、職員間での話し合いを行った。手法や見直しについての統計とすべての意見に対する回答を行い、公表（園内掲示）し、改善に取り組んだ。
- ・保護者の立ち入りはできないままであるが、園での変化や成長の様子などはできるだけ個別にやり取りする時間をとるように心掛けた。
- ・行事の対面での公開は運動会のみとなった。動画での普段の様子を公開や発表会メイキング映像などの近距離での映像からの感動やドキュメント作成に取り組み、子供の育ちの理解を共有することに努めた。

③園の組織化と保育の質の向上

- ・職員間の感染防止として、会議はリモートで実施した。
- ・月1回の運営会議、臨時会議は少人数での対面会議とした。
- ・給食会議は保育日誌の記録検証と協議資料への書き込みにより書面で実施した。
- ・園内研修は講師の要請ができないため、教頭による保育の基礎研修を全職員で、看護師による保健研修を新規採用者中心に実施した。
- ・外部研修のほとんどがオンラインになった。会場への移動が不要で複数職員での参加が可能となり、課題の共有や実践の検証に役立てている。(延べ14名)
オンラインの利点を生かし、今後も積極的に参加、研鑽していきたい。

今年度は昨年に引き続き学年別の活動を主としながら、コーナー保育に取り組んだ。子供の興味や発達に基づく保育の方法として今後も展開していきたい。感染リスクをゼロにすることはできないが、可能な限りの対策を講じながら、この時期に安心して過ごせる場の提供をしていきたいと考える。

未来を生きる子供たちに求められる力は、社会の変化により変化してきている。アンケートや日々の関わり合いの中での行事をはじめとする保護者の期待を受け止めながら、将来をたくましく生きていく心や体の育ちを応援していきたい。

★評価者の皆様に行っていただきたいこと★

①全体の評価

②個別評価の観点に沿って 5段階評価

・教育課程・指導・保健管理・安全管理

全体計画に基づく安全・保健・食育・行事計画等

年齢別指導計画（年間・月間・週）

毎日の保育記録（パソコンと連動）

・特別支援教育 発達支援 保健センター 西南医療センターとの連携

・組織運営 園務分掌の明確化（継続）

月2回のリモート職員会議（PDCAによる改善）

月1回の運営会議

月1回の給食会議

・研修 免許更新講習 該当者2名

救命講習（未実施）

・教育目標 園の目標「根気強く取り組む子・思いやりがある子、挨拶ができる子」

・情報提供 ①お知らせ・・・園だより・HP・マチコミメールの活用

②保育内容・・・ブログ・ツイッター・園チャンネル

・保護者・地域住民との連携 行事への限定参加及びご招待なし

・子育て支援 常時開設は見送り予約制での受け入れ、見学の際の相談受付

・預かり保育 1号認定児に対する 午後の預かりを実施

・教育環境整備 主幹保育教諭、用務員を中心に整備

③その他必要な評価

・食育 野菜、米栽培を実施

・養護 0歳児 5分ごとの午睡チェック

1歳児 10分ごとの午睡チェック

・苦情解決 掲示あり 記録簿あり

④課題と検討

その他 要望 気づいたこと